



第4回

観たいのに観れなかつた映画賞



2025/1/10～1/31

投票受付中！

#MME賞 #MME賞2026 #働く女性で作る映画賞

第4回観たいのに観れなかつた映画賞

～いやあ、時間がなくて～

投票受付開始のお知らせ＜取材のお願い＞

「働く女性」が当事者となり、 多忙で劇場に行けない「リアル」を表す映画賞 今年も開催

子供を育てながら働く映像業界を目指し、業界全体の労働環境の改善に取り組む、特定非営利活動法人映画業界で働く女性を守る会 (<https://swfi-jp.org/>) 通称 swfi (スウフィ) では、2023年より、「観たいのに観れなかつた映画賞～いやあ、時間がなくて～」(略称「MME賞」)を開催してきました。これは映画、ドラマ、TV番組全般に携わる仕事をしており、性自認が女性の方が当事者となって作りあげる投票企画です。4度目となる今回は、昨年に引き続き「すべての働く女性」が投票できる映画賞として開催いたします。

1月10日(土)よりインターネットで投票受付を開始いたしますので、たくさんの働く女性たちに投票、回答していただけるよう、ぜひ、貴メディアにて取り上げていただきたくお願い申し上げます。

◆第4回「観たいのに観れなかつた映画賞」リリースページはこちらよりご確認ください。

https://swfi-jp.org/posts/news/4th_mmeawards/

1月31日(土)投票締切予定、3月31日(火)結果発表予定



◆開催趣旨「すべての働く女性が映画館に足を運ぶきっかけにつながる映画賞」

MME賞は当初、映画業界で働くキャスト・スタッフの多くが感じている、「映画が好きで映像業界に入ったのに、撮影や子育てが忙しく映画を観に行く時間がない」という皮肉な現状をあえて楽しめる映画賞にしてしまい、映像業界外の方にも知ってもらいたいという気持ちで立ち上りました。

そして昨今の様々なジェンダーバランス調査によると、受賞者や審査員の女性比率が低いので、ならば最初から女性だけで作り上げよう！と、映像業界で働く女性で作る映画賞として開催してきました。

MME賞はただ投票するだけではなく、労働環境の改善や、映画館に行く機会を増やすことに繋げたい、という思いで、投票時に「どういった環境であれば映画館に行けたか」という質問に答えてもらいそれを可視化することに取り組んでいます。この映画賞を通じて集まるデータは、興行側にとっても有益な情報となり、観客が求める条件や環境を示す参考として活用できるものとなります。

興行収益がもっと向上し潤えば、映画制作の現場も潤い、私たちが本来目指す、「子育てしながら働く映像業界」という目標に近づくことができるはずです。

また、「映画館と距離ができるいるができるいるのは、映像業界の女性だけではない」という声を受け、投票資格を業種問わず「すべての働く女性」へと拡大いたしました。その結果、昨年は367名の方にご参加いただきました。

映像業界で働く女性たちの投票の部門賞は残しつつ、あらゆる業種で働く女性たちが「映画館で観たいのに観れなかつた」映画はなんだったのか、どういった環境であれば映画館に行くことができたのか、様々な女性達の『観れない』事情や思いを知る事で今後の映画界がより良いものに変わるように、今年も調査を兼ねた映画賞を開催いたします！

(観たいのに劇場に観に行けなかつた悔しさを表すため、協議の結果「ら」ぬき言葉である「観れなかつた」を使用しています。)



◆MME賞の目標は「この映画賞が無くなる事」

働く女性の映画館利用についての調査では、過去1年間に映画館で映画を観た人は全体の約36%にとどまることが明らかになっています。同調査によると、テレビ放送や動画配信サービスで映画を楽しむ人が多く、映画館で観る機会は限られています（クロス・マーケティング調査 2025【prtimes.jp】）。(<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000676.000004729.html>)

結婚や出産などライフステージの変化で自分の時間を確保しにくくなる女性を中心に、映画館利用の低さが見られます。一方、若年女性は比較的利用率が高く、年齢や生活状況による差も存在します。また、家事・育児・買い物などにかける時間が長いことも、映画館へ行く機会を制限する要因の一つと考えられます。

(令和3年社会生活基本調査PDF p.4参照 <https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/pdf/gaiyoua.pdf>)

MME賞の過去アンケートでも、上映時間や仕事の都合で観に行けなかったという声が多く、条件が整えば映画館で観たいという意思が明確に示されています（第3回MME賞投票結果報告書）。(<https://swfi-jp.org/wp-content/uploads/2019/09/3rdmmeawards-result0310.pdf>)

swfiではMME賞を通じて、より多くの働く女性のご意見を集め、開いてしまった映画館との距離を、業界と共にもう一度近づけていきたいと考えています。具体的には、まずすべての働く女性が1年に1回は映画館で映画を楽しめる環境作りを目指します。

さらに、働く女性が観たい映画を何本でも映画館で観られるような労働環境へと変わる未来を目指して、この『観たいのに観れなかった映画賞』がなくなることを目標としています。

◆第3回「観たいのに観れなかった映画賞」投票結果&結果報告書はこちらからDL可能です。

<https://swfi-jp.org/posts/news/3rdmmeawards-result/>

**◆主催団体概要**

NPO法人映画業界で働く女性を守る会 swfi（スウフィ）は「子育てしながら働ける映像業界を作る」という目標のもと、2020年にNPO法人として設立しました。現在の日本映画界で子供ができた時にライフステージが変わるのは圧倒的に女性であることから、まず女性視点での問題に取り組み労働環境の改善を目指すことで、女性だけでなく、ひいてはあらゆるジェンダーの人が働きやすい映像業界を作ることを目指しています。

みんなが、自分の生きやすいように、働きやすいように色々なライフステージを選択できる世界になるといいな、という思いで活動しています。

◆活動内容

設立後すぐに、「コロナ禍における芸能・映像業界で働くスタッフ・キャストへの影響実態調査」を実施。1500人以上の回答を得る。

2022年 [映像業界]なぜやめた？アンケート調査実施。やめていった人の声を吸い上げ、問題点を可視化。

action4cinema 公開 「日本版 CNC、なぜ必要？」 動画内や、深田晃司監督著「日本映画の働き方改革」にアンケート調査の結果が引用される。

2023年より、「観たいのに観れなかった映画賞(MME賞)」開催。

2024年より、ハラスマントセミナー開催（キッズスペース付き、年3～4回のプログラム）

気軽に意見交換ができるオンライン談話室を4年にわたり毎月開催。WEBサイト内の相談窓口の設置。フリーランスで映像業界で仕事をするための心得とストレスチェック票を記載した「心得カード」の作成・配布。専門学校での講演など、働きやすい映像業界にするために、啓発活動を中心に行ってています。

- ・ 団体名：特定非営利活動法人映画業界で働く女性を守る会
Support for Women in the Film Industry.(swfi)
- ・ URL：<https://swfi-jp.org>
- ・ 代表理事：SAORI
- ・ 設立日：2020年1月8日
- ・ お問い合わせ:info@swfi-jp.org

**SNS**

X https://twitter.com/swfi_jp

instagram https://instagram.com/swfi_jp

Facebook ページ <https://www.facebook.com/swfijp/>

